

(19)日本国特許庁(JP)

(12)公開特許公報(A)

(11)公開番号
特開2023-50894
(P2023-50894A)

(43)公開日 令和5年4月11日(2023.4.11)

(51)国際特許分類

F I

E 0 4 F 19/02 (2006.01) E 0 4 F 19/02 T

E 0 4 B 2/82 (2006.01) E 0 4 B 2/82 5 1 1 E

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全6頁)

(21)出願番号	特願2021-161246(P2021-161246)	(71)出願人	390037154
(22)出願日	令和3年9月30日(2021.9.30)		大和ハウス工業株式会社
			大阪府大阪市北区梅田3丁目3番5号
		(74)代理人	100105843
			弁理士 神保 泰三
		(72)発明者	太田 洋介
			大阪府大阪市北区梅田3丁目3番5号
			大和ハウス工業株式会社内
		(72)発明者	武山 裕
			大阪府大阪市北区梅田3丁目3番5号
			大和ハウス工業株式会社内

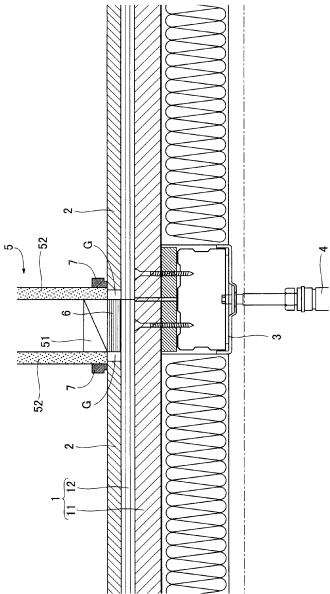
(54)【発明の名称】 室内構造

(57)【要約】

【課題】床面を無垢材で仕上げつつ無垢材の膨張・収縮による不具合を解消できる室内構造を提供する。

【解決手段】この室内構造は、床材1上に無垢仕上げ床板2が敷かれた構造であり、無垢仕上げ床板2・2同士を離れた不連続箇所に間仕切り壁5が位置しており、無垢仕上げ床板2の厚さと同じ厚さを有する板材6が、上記不連続箇所の床材1上に配置されて間仕切り壁5の下面を受けており、無垢仕上げ床板2の縁が板材6の縁から離間している。

【選択図】図1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

床材上に無垢仕上げ床板が敷かれており、上記無垢仕上げ床板同士を離した不連続箇所に間仕切り壁が位置しており、上記無垢仕上げ床板の厚さと同じ厚さを有する板材が、上記不連続箇所の上記床材上に配置されて上記間仕切り壁の下面を受けており、上記不連続箇所の上記無垢仕上げ床板の縁が上記板材の縁から離間していることを特徴とする室内構造。

【請求項 2】

請求項 1 に記載の室内構造において、上記間仕切り壁は、フレームと、このフレームに貼られた壁下地材とを備えており、上記板材の横幅は、上記フレームの横幅と同じであることを特徴とする室内構造。

10

【請求項 3】

請求項 2 に記載の室内構造において、上記無垢仕上げ床板の縁が、上記壁下地材の下方に位置することを特徴とする室内構造。

【請求項 4】

請求項 1 ～ 請求項 3 のいずれか 1 項に記載の室内構造の施工方法であって、上記床材の施工後、上記無垢仕上げ床板を配置する前の段階で、上記間仕切り壁が設置されるべき箇所に、上記板材および上記間仕切り壁を設置する工程と、上記床材上に上記無垢仕上げ床板を配置する工程と、を含むことを特徴とする室内構造の施工方法。

【請求項 5】

20

請求項 1 ～ 請求項 3 のいずれか 1 項に記載の室内構造の施工方法であって、上記床材の施工後、上記間仕切り壁が設置されるべき箇所を空けた状態で、上記無垢仕上げ床板を、上記間仕切り壁よりも先に配置する工程と、上記空けられた箇所に上記間仕切り壁を設置する工程と、を含むことを特徴とする室内構造の施工方法。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

この発明は、床上に間仕切り壁が配置される室内構造に関する。

【背景技術】**【0002】**

30

特許文献 1 には、室内の床面の下方に敷設された敷設部と、上記床面に載置された間仕切り壁と、上記間仕切り壁に設けられ、上記間仕切り壁を上記床面に固定する固定部と、を具備する間仕切り壁の固定構造が開示されている。

【0003】

特許文献 2 には、建物の室内をフローリングするのに使用されるフローリング用の無垢の木目床板材が開示されている。

【先行技術文献】**【特許文献】****【0004】**

【特許文献 1】特開 2019 - 7300 号公報

40

【特許文献 2】実用新案登録第 099445 号公報

【発明の概要】**【発明が解決しようとする課題】****【0005】**

無垢材は、水分の吸収によって膨張し、乾燥時には収縮する性質を有する。このため、上記従来の間仕切り壁の固定構造において、床面が無垢材で仕上げられた場合、この無垢材の膨張・収縮によって間仕切り壁の下端側が移動するため、当該間仕切り壁の下部位置がずれる等のおそれがあった。

【0006】

この発明は、上記の事情に鑑み、床面が無垢材で仕上げつつ無垢材の膨張・収縮による

50

不具合を解消できる室内構造を提供することを課題とする。

【課題を解決するための手段】

【0007】

この発明の室内構造は、床材上に無垢仕上げ床板が敷かれており、上記無垢仕上げ床板同士を離間させた不連続箇所の間仕切り壁が位置しており、上記無垢仕上げ床板の厚さと同じ厚さを有する板材が、上記不連続箇所の上記床材上に配置されて上記間仕切り壁の下面を受けており、上記不連続箇所の上記無垢仕上げ床板の縁が上記板材の縁から離間していることを特徴とする。

【0008】

上記の構成であれば、上記不連続箇所において、上記無垢仕上げ床板の縁が上記板材の縁から離間し、無垢材が膨張・収縮しても上記間仕切り壁の床側位置に変化は生じないので、無垢材の膨張・収縮で上記間仕切り壁の下部位置がずれる等の不具合が回避される。また、上記板材は、上記無垢仕上げ床板の厚さと同じ厚さを有するので、これまで使用していた間仕切り壁を、特に変更することなく、使用することが可能になる。

【0009】

上記間仕切り壁は、フレームと、このフレームに貼られた壁下地材とを備えており、上記板材の横幅は、上記フレームの横幅と同じであってもよい。これによれば、上記板材の横幅が上記フレームの横幅よりも狭くされた場合の上記フレームに対する支持不具合を防止でき、また、上記板材の横幅が上記フレームの横幅よりも広くされた場合に上記離間箇所が上記間仕切り壁から離れるおさまりになるのを回避できる。

【0010】

上記無垢仕上げ床板の縁が、上記壁下地材の下方に位置してもよい。これによれば、上記無垢仕上げ床板の膨張・収縮で当該無垢仕上げ床板の縁位置が移動しても、この縁位置の移動範囲を上記壁下地材の幅内に収めることが可能になる。

【0011】

この発明の室内構造の施工方法は、上記の室内構造を作製するための施工方法であって、上記床材の施工後、上記無垢仕上げ床板を配置する前の段階で、上記間仕切り壁が設置されるべき箇所に、上記板材および上記間仕切り壁を設置する工程と、上記床材上に上記無垢仕上げ床板を配置する工程と、を含むことを特徴とする。

【0012】

或いは、この発明の室内構造の施工方法は、上記の室内構造を作製するための施工方法であって、上記床材の施工後、上記間仕切り壁が設置されるべき箇所を空けた状態で、上記無垢仕上げ床板を、上記間仕切り壁よりも先に配置する工程と、上記空けられた箇所に上記間仕切り壁を設置する工程と、を含むことを特徴とする。

【発明の効果】

【0013】

本発明であれば、無垢材が膨張・収縮しても間仕切り壁の床側の位置に変化は生じないので、間仕切り壁の下部位置がずれる等の不具合が回避される。また、間仕切り壁を受ける板材は、上記無垢仕上げ床板の厚さと同じ厚さを有するので、これまで使用していた間仕切り壁を、特に変更することなく、使用することが可能になるという効果を奏する。

【図面の簡単な説明】

【0014】

【図1】実施形態の室内構造を示した説明図である。

【発明を実施するための形態】

【0015】

以下、この発明の実施の形態を添付図面に基づいて説明する。この実施形態の室内構造では、図1に示すように、床材1上に、無垢材からなる無垢仕上げ床板2が配置される。無垢仕上げ床板2の厚さは、例えば、15mmである。

【0016】

床材1は、例えば、大引き3上にビス固定された下地板11と、この下地板11上に貼

10

20

30

40

50

られた捨て貼り合板 1 2 とからなる。大引き 3 は、束 4 によって支持されている。束 4 は図示しない床コンクリート上に設置される。また、大引き 3 の周囲位置には断熱材が設けられる。

【 0 0 1 7 】

無垢仕上げ床板 2 ・ 2 同士は、床材 1 上で離れて配置されており、この不連続箇所の間仕切り壁 5 の下部側が位置する。

【 0 0 1 8 】

間仕切り壁 5 は、例えば、木製のフレーム 5 1 と、このフレーム 5 1 に貼られた壁下地材 5 2 とを備えている。フレーム 5 1 の横幅（厚さ）は、例えば、5 0 mm である。壁下地材 5 2 は、例えば、厚さが 1 2 . 5 mm の石膏ボードである。

10

【 0 0 1 9 】

また、上記不連続箇所の床材 1 上には、合板からなる板材 6 が位置している。板材 6 の厚さ（高さ）は、無垢仕上げ床板 2 の厚さ（高さ）と同じ 1 5 mm である。また、板材 6 の横幅は、フレーム 5 1 の横幅と同じ 5 0 mm である。板材 6 は、間仕切り壁 5 の延設方向（紙面垂直方向）に長尺であり、例えば、1 8 2 0 mm の長さを有する。

【 0 0 2 0 】

上記不連続箇所の床材 1 上において、板材 6 は、フレーム 5 1 の下フレーム部の下面を受けている。この下フレーム部に対して上側から打ち込まれたビスは、板材 6 にも貫通して床材 1 に至り、下フレーム部と板材 6 とが一体的に床材 1 に固定される。

【 0 0 2 1 】

無垢仕上げ床板 2 の縁は、板材 6 の縁から離間しており、これによって隙間 G が形成されている。この離間の距離の最低値は、冬場において無垢仕上げ床板 2 が最も収縮していた状態で施工されたとし、梅雨時に最も伸びたとしても、無垢仕上げ床板 2 の縁が板材 6 の縁に当たらないとする観点から決定される。上記離間の距離の最低値は、例えば、3 mm 程度である。一方、離間の距離の最高値は、例えば、壁下地材 5 2 の厚さよりも小さい値としている。壁下地材 5 2 の厚さが例えば 1 2 . 5 mm である場合、離間の距離の最高値は、例えば、1 0 mm 程度とされる。このように、壁下地材 5 2 の厚さを考慮した 1 0 mm 程度とする離間距離で施工する場合、壁下地材 5 2 に少し掛かる程度で無垢仕上げ床板 2 の縁を位置させれば上記 1 0 mm 程度が確保されることになるので、床仕上げ施工が簡単になる。

20

30

【 0 0 2 2 】

無垢仕上げ床板 2 の縁は、例えば、壁下地材 5 2 の下端の下方に位置している。また、無垢仕上げ床板 2 の縁の上面と、壁下地材 5 2 に貼られた壁紙の下部表面とによる角部には、巾木 7 が配置されている。巾木 7 は、上記壁紙に接着されており、無垢仕上げ床板 2 の縁の移動の影響を受けない。

【 0 0 2 3 】

かかる構成の室内構造であれば、上記不連続箇所において、無垢仕上げ床板 2 の縁が板材 6 の縁から離間した離間箇所（隙間 G ）を有しており、無垢材が膨張・収縮しても間仕切り壁 5 の床側の位置に変化は生じないので、間仕切り壁 5 が傾く等の不具合を回避することができる。また、板材 6 は、無垢仕上げ床板 2 の厚さと同じ厚さを有するので、これまで使用していた、例えば、カラーフロア用の間仕切り壁を、特に変更することなく、この室内構造の間仕切り壁 5 として使用することが可能になる。

40

【 0 0 2 4 】

板材 6 の横幅がフレーム 5 1 の横幅と同じであると、板材 6 の横幅がフレーム 5 1 の横幅よりも狭くされた場合のフレーム 5 1 に対する支持不具合を防止でき、また、板材 6 の横幅がフレーム 5 1 の横幅よりも広くされた場合に上記離間箇所が間仕切り壁 5 から離れるおさまりになるのを回避できる。

【 0 0 2 5 】

無垢仕上げ床板 2 の縁が、壁下地材 5 2 の下方に位置すると、無垢仕上げ床板 2 の膨張・収縮で当該無垢仕上げ床板 2 の縁位置が移動しても、この移動範囲を壁下地材 5 2 の横

50

幅（厚さ）内に収めることが可能になる。また、上述したように、壁下地材 5 2 に縁が少し掛かる程度で無垢仕上げ床板 2 を配置すればよい施工となるので、床仕上げ施工が簡単になる。

【 0 0 2 6 】

なお、無垢仕上げ床板 2 の縁が板材 6 の縁から離間した離間箇所は、上記の例では、隙間 G であったが、このような隙間 G ではなく、上記離間箇所に圧縮変形可能な弾性部材が配置されてもよい。この弾性部材の幅は、上記離間の距離の最低値乃至最大値の範囲で設定される。上記弾性部材を配置することで、無垢仕上げ床板 2 が壁下地材 5 2 の下方に差し込まれる際に、この差し込みによる当たりを作業者に分からせることができる。作業者は、上記弾性部材の当たりを感じて無垢仕上げ床板 2 の押し込みを止めることで、規定の離間距離が確保された状態で無垢仕上げ床板 2 を配置できる。無垢仕上げ床板 2 が膨張した際には、上記弾性部材は、無垢仕上げ床板 2 に押されて縮むことができる。上記弾性部材の厚さ（高さ）を、無垢仕上げ床板 2 の厚さ（高さ）よりも薄くしておくこと、上記弾性部材が無垢仕上げ床板 2 に押されて横方向に縮んだ際の上方向の膨らみによる巾木 7 からはみ出しが回避される。

10

【 0 0 2 7 】

次に、上記室内構造の施工方法について説明していく。床材 1 の施工および天井仕上げが行われた後、無垢仕上げ床板 2 を配置する前の段階において、作業者は、間仕切り壁 5 が設置されるべき箇所の床材 1 上に、板材 6 を接着により仮固定し、さらに、この板材 6 上に、間仕切り壁 5 のフレーム 5 1 を接着により仮固定する。なお、フレーム 5 1 の下フレーム部の下面に、板材 6 が事前に接着により仮固定されていてもよい。次に、作業者は、板材 6 およびフレーム 5 1 の下フレーム部を、床材 1 上に、ビス等を用いて一体的に固定する。その後、作業者は、フレーム 5 1 に壁下地材 5 2 を貼付する作業および、床材 1 上に無垢仕上げ床板 2 を敷く作業を行う。

20

【 0 0 2 8 】

間仕切り壁 5 が設置されるべき箇所を空けた状態で、無垢仕上げ床板 2 を、間仕切り壁 5 よりも先に配置して床仕上げを行う施工方法とすることもできる。板材 6 は、その中心線を上記の間仕切り壁 5 が設置されるべき箇所（不連続箇所）の中央位置に合わせて配置される。間仕切り壁 5 が設置されるべき箇所の横幅は、板材 6 の幅寸法に、上記離間の距離の最高値乃至最低値の範囲の値を加えた値となる。

30

【 0 0 2 9 】

以上、図面を参照してこの発明の実施形態を説明したが、この発明は、図示した実施形態のものに限定されない。図示した実施形態に対して、この発明と同一の範囲内において、あるいは均等の範囲内において、種々の修正や変形を加えることが可能である。

【 符号の説明 】

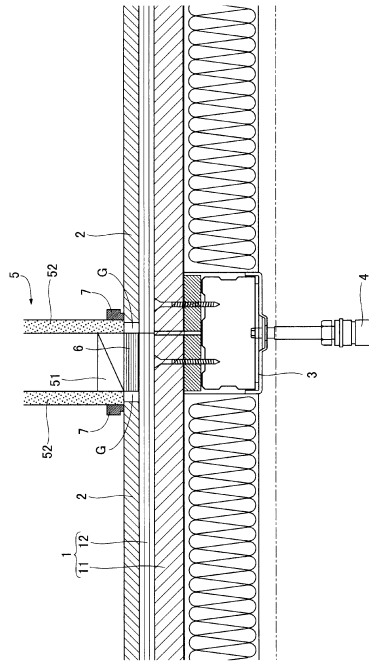
【 0 0 3 0 】

- 1 : 床材
- 2 : 無垢仕上げ床板
- 3 : 大引き
- 4 : 束
- 5 : 間仕切り壁
- 6 : 板材
- 7 : 巾木
- 1 1 : 下地板
- 1 2 : 捨て貼り合板
- 5 1 : フレーム
- 5 2 : 壁下地材

40

【図面】

【図 1】



10

20

30

40

50